

空樽

小山内薫

(一)

昔、ギリシャのコリントといふ町に、サオゲネスといふ、名高い學者がゐました。この人は、空樽一つを自分の家にして、いつもその中で日向ぼっこをしてゐました。



(三) 小僧の一人は、そのうちに水鏡砲を持って来て、それを樽の穴へ突っ込んで、シャット水を飛ばしました。サオゲネスは濡れ鼠になつて、
「おヤツ、だれだ。」と喚びました。二人の小僧はどん／＼逃げ去りました。



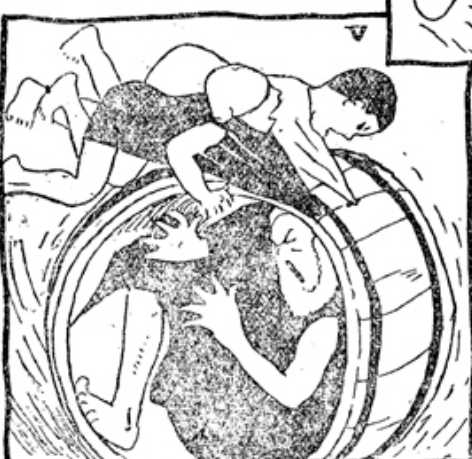
(三) 或とき、そこへ二人のいたづら小僧がやつて来ました。いたづら小僧は、サオゲネスが空樽の中であう／＼寝てゐるのを見ると、大急ぎで仲間の小僧をよんで来ました。二人は、丁度大人が人の家の戸を叩くやうに、サオゲネスの樽の外側を、拳固で／＼叩きました。
サオゲネスは、樽の中から、
「だれだ、何の用だ」と聞きました。



(四) サオゲネスが醜態を拭いて、また樽の中へ進入すると、二人のいたづら小僧はまたノコ／＼やつて来ました。そして今度はその樽をサオゲネスが進入つた儘コロ／＼回し始めました。サオゲネスは愕りして、「おい／＼待つてくれ、／＼」と大聲を上げました。



(五) 樽は勢よくコロ／＼と轉がりました。サオゲネスは、しまひには目が廻つて来て、「おい、助けてくれ、／＼」と喚びました。そのうちに、二人の小僧には怒り天罰が来て、二人とも、着物のほじを樽の釘に引っかかりました。二人はびつくりして足をバタ／＼やりました。けれども勢のついた樽は、二人を引っかけた儘コロ／＼と轉がつて行きました。



(六) 二人は泣いても、喚いても、もう駄目です。二人とも怒り樽の下にしかれてしまひました。やがて樽がやつと、或家の壁のところへ来て留まります。二人のいたづら小僧は、もうお煎餅のやうに、メシヤン／＼になつてゐました。
サオゲネスは、
「それを見る」と言ひながら、また樽の中へ進入りました。